

耳鼻咽喉科学

責任者： 佐藤 宏昭 教授

教育成果（アウトカム）：

PBL チュートリアルを行うことで耳鼻咽喉科学疾患における問題抽出、問題解決のステップを実際に経験し、グループ討論の中から患者さんの診断、検査、治療方針の確立にいたるプロセスを理解し、修得する。医療チームの一員（クリニカルクラクシップ）となることで、外来、病棟、手術室における耳鼻咽喉科診療の体験を深め、問題解決型学習と対人技能を修得する。

（ディプロマポリシー：1,2,6,7）

行動目標（SBOs）：

外来実習

1. 外来新患者について、診断上必要な病歴を問診し、カルテに記載できる。
- *2. 外来新患者について、病歴、所見から鑑別診断を挙げ、さらに必要な検査を述べることができる。
3. 耳鼻咽喉科における諸検査の意義、方法を理解し、その結果の説明ができる。
- *4. 耳鼻咽喉科疾患の単純エックス線写真、CT、MRI等の所見を読影し、現傷病が診断できる。
5. 小児難聴外来で扱う先天性難聴の診断に必要な検査の意義、方法および聴覚リハビリテーションを理解し、その説明ができる。

病棟実習

1. 頭頸部腫瘍について、その診察手技、診断法、検査所見、治療計画を理解し説明できる。
2. 耳鼻咽喉科疾患の単純エックス線写真、CT、MRI等の所見を読影し、現傷病が診断できる。

検査室実習

1. 味覚・嗅覚検査の手技を見学し、体験することでその原理と結果の解釈を説明することができる。
2. 味覚・嗅覚検査の手技を見学し、体験することでその原理と結果の解釈を説明することができる。

手術室実習

1. 清潔操作を理解し、手術のための手洗い、ガウンテクニックができる。
- *2. 耳鼻咽喉科の手術を見学し、手術の概念、方法について理解し、説明することができる。
3. 手術助手として手術に参加し、手術の介助や皮膚縫合ができる。

特に留意すべき注意事項：

1. 月曜日午前中に担当教官によるオリエンテーションが行われる。
2. 患者さんの前で「悪性」、「癌」、「AIDS」等、告知の是非が問題となっているような用語は絶対に用いないこと。
3. 診察器具、機械等を教官の許可なしに触れないこと。

卒業時までには耳鼻咽喉科にて修得すべき内容（*は必修）

- *1) 頭部（顔貌、頭髪、頭皮、頭蓋）の診察ができる。
- *2) 耳（耳介、聴力）の診察ができる
- *3) 鼻腔、副鼻腔の診察ができる。
- *4) 甲状腺、頸部血管（外頸静脈、内頸静脈、頸動脈）、気管を診察できる。
- *5) 口唇、口腔、咽頭の診察ができる。
- *6) 音叉を用いて聴力試験（Weber試験、Rinne試験）を実施できる。
- *7) 耳鏡で外耳道、鼓膜を観察できる。
- *8) 鼻鏡を用いて前鼻腔を観察できる。
- 9) 耳鼻咽喉科・頭頸部外科の画像が読影できる。
- 10) 耳鼻咽喉科・頭頸部外科の手術を見学し、体験することで手術の概念、適応と禁忌の説明ができる。

事前学修内容および事前学修時間：

シラバスに記載されている実習内容を確認し、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各実習に対する事前学修の時間は最低30分を要する。さらに、医療面接・診察など基本的臨床技能実習で修得した手技についても再確認しておくこと。本内容は全実習に対して該当するものとする。

第4・5学年臨床実習スケジュール [耳鼻咽喉科学]

[第1週]

指導医師名：①佐藤宏昭教授 ②志賀清人教授（頭頸部外科学科） ③平海晴一准教授 ④桑島秀助教 ⑤片桐克則助教（頭頸部外科学科）
 ⑥嶋本記里人助教 ⑦齋藤大輔助教（頭頸部外科学科） ⑧阿部俊彦助教 ⑨川岸和朗助教 ⑩池田文助教（任期付）（頭頸部外科学科）
 ⑪土田宏大助教（任期付） ⑫及川かおり助教（任期付） ⑬小田真琴非常勤医師 ⑭小林有美子非常勤医師

曜	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限
月	オリエンテーション・新患外来 実習	外来見学実習	病棟実習	病棟実習
[場 所] [指導医]	[カンファランス室・外来] ①	[外来] ①	[病棟] ⑧	[病棟] ⑧
火	手術見学と助手	手術見学と助手	手術見学と助手、入院患者診察	手術見学と助手、入院患者診察
[場 所] [指導医]	[手術室] ②⑤⑦⑩	[手術室] ②⑤⑦⑩	[手術室][病棟] ②⑤⑦⑩、③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫	[手術室] ②⑤⑦⑩、③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫
水	手術見学と助手	手術見学と助手	小児難聴外来または腫瘍外来見学 入院患者診察	小児難聴外来または腫瘍外来見学 入院患者診察
[場 所] [指導医]	[手術室] ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬	[手術室] ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬	[外来][病棟] ②⑤⑦⑩⑬、③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫	[外来][病棟] ②⑤⑦⑩⑭、③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫
木	手術見学と助手	手術見学と助手	手術見学と助手 入院患者診察	手術見学と助手 入院患者診察
[場 所] [指導医]	[手術室] ③⑥	[手術室] ③⑥	[手術室][病棟] ③④⑥⑧⑨、③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫	[手術室][病棟] ③④⑥⑧⑨、③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫
金	手術見学と実習	手術見学と実習	手術見学と実習	実習のまとめ・試問
[場 所] [指導医]	[手術室] ②⑤⑦⑩⑪⑫	[手術室] ②⑤⑦⑩⑪⑫	[手術室] ②⑤⑦⑩⑪⑫	[カンファランス室] ④⑧

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用区分	使用機器・器具等の名称	台数	使用目的
実習用機械	純音オージオメータ	4台	聴力検査実習
実習用機械	自記オージオメータ	1台	聴力検査実習
実習用機械	インピーダンスオージオメータ	1台	聴力検査実習
実習用機械	ワイドバンドティンパノメトリ (タイタン)	1台	聴力検査実習
実習用機械	電気味覚検査計	1台	耳鼻咽喉科診察実習
実習用機械	オルファクトメトリ	1セット	耳鼻咽喉科診察実習
実習用機械	音叉	3台	聴力検査実習
実習用機械	耳鼻咽喉科診療ユニット	4台	耳鼻咽喉科診察実習
実習用機械	模型	4台	耳、鼻、咽喉頭の解剖理解のため
実習用機械	ファイリングシステム	2台	耳鼻咽喉科診察実習
診断用機械	耳音響放射測定装置	2台	内耳機能検査
診断用機械	電気眼振計	1台	平衡機能検査
診断用機械	視運動性眼振計	1台	平衡機能検査
診断用機械	誘発反応測定装置一式 (エクリプス)	1台	臨床実習における検査実習
診断用機械	耳鼻咽喉科診療用ユニットセット (ニューピアレス2型)	1台	臨床実習における回診見学
診断用機械	XPS ドリルシステム一式	1台	臨床実習における手術見学
視聴覚用機械	シャウカステン	2台	画像所見の把握と理解
視聴覚用機械	ビデオ	4組	手術他供覧 (上顎腫瘍手術・喉頭腫瘍手術・気管切開手術)
視聴覚用機械	ビデオ装置	1台	代表的疾患の供覧
視聴覚用機械	PVE ビデオプロセッサー (EPM-3500)	1台	臨床実習における局所所見の供覧
視聴覚用機械	PVE ビデオ鼻咽喉スコープ (VNL-1130)	1台	臨床実習における局所所見の供覧
視聴覚用機械	ノートパソコン (LaVie G タイプ C)	1台	教育用 CD の閲覧
視聴覚用機械	赤外線眼振画像 TV 装置 (IEM-2)	1台	臨床実習における眼振所見の供覧
視聴覚用機械	VISERA 耳鼻咽喉科内視鏡システム一式 (OTV-S7V.D)	1台	臨床実習における症例供覧
視聴覚用機械	ノートパソコン一式 (PC-WA70L)	1台	臨床実習における補聴フィッティングの見学
視聴覚用機械	PC (EndevorNT9500Pro15.4 型液晶)	1台	講義用
視聴覚用機械	鼓膜撮影用硬性内視鏡デジタルカメラ一式 (E-330 他)	1台	鼓膜所見の供覧
視聴覚用機械	パソコン一式 (Dimension9200)	1台	講義
診断用機械	外来用診療システム(FU-STE)	一式	臨床実習における外来実習
視聴覚用機械	プレゼンテーション用ディスプレイ(TH-65PF10KR)	一式	臨床実習における症例検討
視聴覚用機械	手術画像閲覧編集用機器(SR-DVM700)	一式	〃

成績評価方法

臨床実習評価は以下の項目について 100 点満点で評価する。

1. 知識：15 点
2. 態度：20 点
3. 技能：10 点
4. 問題解決能力：15 点
5. 技能試験：10 点
6. 指導医評価：10 点
7. ポートフォリオ：20 点